## 捕鯨問題からみえてくる日本①

平和な生活を守るために、 に伝えなが 海洋大国・日本を目指す

## 期<sub>-</sub> 期政 <u></u>全塾

日本と両国の3か国がバランスの取れた関係を続け、 京大大学院哲学部中国哲学専攻。両国で・オハイオ州立大国際関係学部卒、中国1988年7月広島市生まれ、34歳。 間生活した。 2021年度松下政経塾に入塾 両国で12年 虫国

どの観点から、 日本の一次産業を強化したいと考え、特に漁業振興を含ために、為政者を志す。食料安全保障や離島防衛な

れくらいの頻度で出してい出していると聞いたが、ど指さした。「鯨肉を給食で e times in…」と言い終わ 指さした。「鯨肉を給食でれが理由」と自分の口元を るのか」とも聞かれ、「fiv のアドバイスを熱く語って なり減ってきているという ンダルだけには気をつけ 人の魚介類の消費量がか 3日目の夜のシュ た。異性とのスキ ん」と心で突っ 誕生月も聞  $\geq$  $\Box$ キ としてくれるが、

食であった。 ともにした、 盾となるクジラ問題

お粗

対立し、

自分の主張を通す

という価値観が真っ向から

いて明らかに立場を変えて

韓国もこ

ろと忠告され、

韓国が今回の会議にお

「全く捕るべきではない

国際捕鯨委員会(IWC)

「捕って利用する」

いちばん衝撃が走ったのけた国際会議だった。

ら、私に政うにウエー

私に政治家になるため

ない。「いつから反捕鯨にを別に知っているわけでは海外の友達も申命記の言葉 て生きているだけなのだと にそういう価値観に埋没 それなりの理由を並べよう なったの?」と聞いたら、 を知っているわけでもな キリスト教徒が皆このこと けない」と明記されている。 汚いものだから食べたら ヒレとウロコのないものは 旧約聖書の申命記の14章 捕鯨に難色を示す私の (反捕鯨を主張する とどのつまり、 いる物のうち、

世界の中で、

クジラの注目

していた。韓国は海洋水産付かない」とはっきり発言

安全保障と商業捕鯨は結び

保障の議題の時も、

「食料

を頬張っていた私は、

に賛成を明示し、

食料安全

話題になり、

牛肉ステー

話し合おうとするなんて、 も膨れ上がり、地球規模で た。これほどまでに加盟国

々を囲い込み、成立してい分たちに賛同してくれる国

大西洋サンクチュアリ設定

をどんどん巻き込んで、 鯨なんて関係ないという国 ための票数がいるから、

自

う立場に切り替わった。南だったのだが、反捕鯨とい

ルなひとコマである。

ステイナブル・ユース) れまでは日本側のSU きたことである。

とも感じた。

IWCの実態

部から1

人と、鯨研究セン

からスナメリの研究者

度や影響力は計り知れない

思い出深い夕 れからも問われるのだろ

無意識的 ら、領海と排他的経済水域を保障がひも付かないな間がでいる。捕鯨と食料安 いう問いを、いつも念頭にいう問いを、いつも念頭にの国民をどうやって食わせ あった時に、 るだけではなく、 手放すという意思表明にな いだろう。 る。 ても、心配性の私は、 少している特異な国だとし てまで他者に施すことはな ん大事で、 末な食料自給率を提げてい 輸入に多くを頼って、 途上国ではないとはいえ、 (EE乙) にある水産物を 日本は島国であり、 どの国も自国がいちば 日本が、 自己を犠牲に 1億人以上も 造船など 人口減

何か

的資源もどん の技術面や-

何事も一度途切れると、まくであろう。

た始めるのに、 遠洋漁業の過去の栄光と 日本の国益に資 困難や障害

法律や科学を持

という主張を通

では莫(ばく)大な防衛費 するためにどうするべきな 利益が出

ノダと

ても、鯨油のための甫原でつては捕鯨していたといっ

鯨油のための捕鯨で

食肉として

ねているのだ。彼らは、

の捕鯨ではなく、 あったわけで、

そもそも

う。かつてよっ・・・・・と思のか、日本人の中で積極的のか、日本人の中で積極的 諸島も、無人島になり、今があって有人であった尖閣 な目線で、 れてはいけない。世界の大益や衝動だけで安易になさ れば、 多数の潮流に流されず、 は容赦なく切り捨てるだろ れない。もうからない事業ないなら民間企業は生き残 や心労を要する。 もいえる捕鯨だが 本の意志があってあらがっ 廃れるだけだ。

とのない議論なのだと悟っ いつまでたっても交わるこ 考えで捕鯨を行っていた。 条約の制定当初から異なる

しかも限られた場

どう

りとも捕ったら駄目で、

「クジラを一頭た

お 会議の外で 熱い、

べている猫舌の一人を横目熱い」と、マイペースに食 もう一人がパンではな

を貫き、

相反するイデオロ

-に真っ向から対峙(じ)

は継続して自国のスタンス が残った。それでも、

だと実感し、

むなっ

しさだけ

日本

続的利用の共存が無理なの

ず反捕鯨と持

た。

とりあえ

害されてい ける権利を侵 的に捕鯨を続 操業にもかかわらず、 かりとした管理のもとでの 理の機能不全である。 置いている組織になってお

持続的な捕鯨活動の管

加していた。「女性だけで、

へ、どちらも女性が参

しっ

しかも2人だけで来るなん

とかぶせてきたので、

毎日や

[Nooo,

て勇敢だね」と話すと、

「あなたもがんばれ」と鼓

クジラの保護に重きを

い刺激になった。 ンティグア・バーブーダと 答に困った。 に5回、 ね」と言われてしまい、 影響を及ぼせるというのか やってそれで国民の味覚に 所だけ」と言うと、

返

ち出して、

ああでもない

こうでもない

と駄々をこ

ライのようでもあると気付 しているというのは、 サム ンツト を持ってくるよ ルシア からの2-

カンボジア代表国とアンティグア・バーブーダ代表面と記念撮影する筆者

界の範疇 国として、日本 キリストが誕生する前の世 からなくなる。 ただ、 議論の根本は、

たいと思う。そして、 ていることを知ってもらい との区分をどう考えるの **産哺乳類と、そのほかの角** クジラ問題が盾となっ

う行動していくのかは、 事象にどう向き合って、

捕鯨が生み出すさまざまな 人として、

律、技術など、そ たのではないだろうか。 ヒトの産物の存在意義が分 に前もってプログラム化し クジラをはじめとする海 技術など、そのような (ちゅう)を超え 神様が故意 科学や法

制になって、2024 た。次回のIWCは、 た。次回のIWCは、新体い議長と副議長が選ばれ WC総会最終日に、 のリマで開かれる。 2024年ペ

弱になって、 どん脆(ぜい)

題と向き合っていきたい え、これからも、私は捕鯨問 化の一つだと捕鯨をとら 守っていく日本歴史文 国民からの需要もなけ 政治判断は目の前の利